

調査の企画から実施、分析、報告書の作成までを学生が実際に体験できるようにした。

3. 2001年度から、「関西学院大学社会福祉OB・OGの集い」として、それまで別々に開催してきたOB・OG会（関学大学院社会福祉専攻卒業生のための会）と福祉セミナー（学部卒の現場で活躍される卒業生を対象とした会）を合同開催するようにし、より充実した活動ができるようになった。

（改善の具体的方策）

1. マルチメディア教育推進の一環として、学部で独自に作成するビジュアル・テキスト（画像情報により分りやすく説明したテキスト）を用いた社会学教育の実施について学部長室委員会で検討する。
2. 少人数教育を効果的に実施する場合に必要な授業時間帯以外での学生への指導については、設備面として、指導場所としての教授研究室の充実が望まれるが、この点については、予算面などの問題がありさらに大学本部と調整を図る。
3. その他の事項については、これまでの取り組みをさらに発展させていく。

3.1.4.4 教育成果のあり方

【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

- （必須要素）教育上の効果を測定するための方法の適切性
- （必須要素）教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況
- （必須要素）教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況
- （必須要素）卒業生の進路状況
- （選択要素）教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況
- （選択要素）教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況
- （選択要素）教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況
- （選択要素）国際的、国内的に注目されるような人材の輩出状況

【評価項目 6-4-2】 厳格な成績評価の仕組み（成績評価法）

- （必須要素）履修科目登録の上限設定とその運用の適切性
- （必須要素）成績評価法、成績評価基準の適切性
- （必須要素）厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況
- （必須要素）各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性
- （選択要素）学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況

＜2003年度に設定した目標＞

1. 授業時間外の学習を促進し、理解を深めるためのレポート提出の推進
2. 授業時間内における平常試験の実施による学生の理解度・到達度の確認
3. 卒業判定を含めた教育結果の判定のための客観的基準の設定
4. 2005年度よりのGPA制度の導入
5. 授業開始2ヶ月後の時点での履修中止制度の採用
6. 成績評価（講義科目）の平均点の基準（70-75点）の設定
7. 学習意欲を喚起することも含めての、学部における成績上位者の公表

（現状の説明）

社会学部では1997年度以降、一学期あたりの履修登録数の制限を28単位としているが、学生がより積極的かつ重点的に授業に取り組むことを可能にするべく、さらに登録制限数を下げることが検討してきた。

成績評価に関しては、定期試験だけでなく定期レポート、授業中試験、平常レポートなどを取り入れた多様な評価の実現に取り組んできた。2003年度・2004年度に関していえば、開講科目全体のなかで定期試験を実施した科目が約5割、定期レポートを実施した科目が約1割、授業中試験を実施した科目が約3割、平常レポートを実施した科目が約1割となっている。こうした現状からも、多様な評価の実践が着実に進んでいることが確認できる。

成績評価の結果に関しては、1999年度より「授業科目別成績統計表」を学部の講師控室にて閲覧できるようにしている。閲覧期間は、春学期の成績評価の結果については10月1日～10月31日、秋学期の成績評価の結果については翌年度の4月1日～4月30日と定めている。このように専任・非常勤講師ならびに学部関係者に対して、「授業科目別成績統計表」を公開することによって、授業を担当する各教員は、自分が担当する科目の成績評価結果を学部全体の成績評価結果との関連において捉えることができ、そのことが各科目における成績評価のより一層の厳格化と多様化の実現に貢献している。

卒業生の進路状況については、「3.1.1 理念・目的・教育目標」のグラフを参照。

（点検・評価の結果）

学生の学習意欲を高め、より積極的な授業履修を可能にすることを目標に掲げた教育上の取り組みは、円滑に進んでいると判断される。定期試験だけでなく多様な評価方法を取り入れた成績評価の導入によって、平常の授業への学生の取り組みが、より積極的なものになっているといえる。

教員の側においても、「授業科目別成績統計表」の公開を通じて成績評価に対する関心が深まり、学部全体の動向を踏まえてより厳格な成績評価の実現に向けた動機付けが高まっている。

（改善の具体的方策）

学生がより積極的かつ重点的に授業に取り組むことを目指して、2005年度より一学期あたりの履修登録制限数を24単位に引き下げた。こうした措置のもとで、より一層密度の高い授業履修が可能になることが期待される。

成績評価をより一層多様なものにすることを目指して、2005年度春学期よりマークシートを平常試験に利用できるようにすべく、教材開発室の体制を整えた。具体的には、各教員が予約制で学部の教材開発室においてマークシートリーダーとパソコンを使ってマークシート用紙に記入された解答を集計・分析できるような機材環境を整えた。こうしたハード・ソフト面での整備を今後も進めていくことを通じて、平常の授業内容のより一層の充実化と成績評価の多様化を進める。